

令和6年度 県立山形北高等学校 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

教育目標	一つ「ほがらかに 温かく」
	二つ「まえむきに 誇らしく」
	三つ「しなやかに 逞しく」

**スクール・ミッション** 文化と芸術の風薫る環境の中で、校歌にある「倦(う)まず たゆまず ほがらかに」を胸に、普通科と音楽科の生徒が様々な関わりを通して、互いに感性と能力を磨き合いながら粘り強く着実に学び、自己実現に向けて果敢に挑戦し続け、未来をひらき地域の社会と文化を支える人材になるための力を育成します。

達成度	
A	達成
B	おおむね達成
C	やや不十分
D	不十分

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価 意見・要望・評価等
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	
1 学力向上と学習指導の充実	(1) 授業第一主義の徹底を図る。	①年間授業時数を1単位35時間確保する。 ②校務支援ソフト(e-教務)を活用し出欠の確認や成績管理を適切に行う。	・授業日数を確保する。年間行事予定を確認し、短縮授業は必要最小限にとどめる。 ・e-教務の授業の出欠入力が見られる。資料プリントの配布が滞る場合はかかる。	B	・授業日数の確保はできている。年間行事予定にない短縮授業が多く苦慮している。 ・e-教務の授業の出欠入力が見られる。資料プリントの配布が滞る場合があった。	・授業変更をスムーズに行えるよう先々を見て行事などを共有できるように心がける。e-教務の出欠入力を、その週のうちに入力するように呼びかけを行う。	○保護者による学校評価の「入学させてよかった」の質問の回答が高評価である。 ○音楽科の志願者が増えてよかった。 ○図書館の蔵書をさらに工夫してはどうか。
	(2) 教科指導力の向上を図るため、研究授業・公開授業を推進する。	①各教科で研究授業を1回以上実施し、職員全体で合評会を行う。 ②観点別評価への理解を深め、シラバスや多様な授業評価に反映させる。 ③年間を通じ、総合的な探究の時間における主体的・協働的な学びを各学年で実施する。	・研究授業の実施を周知するとともに、職員相互の授業見学を推進する。 ・校内研修会の開催する。また、外部で開催される研修会への参加を促す。 ・各学年の年間計画に基づき、全職員の協力による指導を行う。	B	・9月に集中した形で行えたのがよかった。ただ、授業見学に関しては、なかなか行なわれなかった。 ・各学年が計画通りに行い、一部調べ学習になっている生徒もいるが、生徒の成長につながっている。	・指導力向上のため、研究授業を行い、意見交換を積極的に行う雰囲気醸成する。 観点別評価に関して、教務規定や、評価テストのシステムを見直し、現行にあったものにする。 総合的な探究の時間をより良い協働的な学びにつなげられるようにするため、全職員の協力体制を再確認する。	
	(3) 確かな学力育成のため、探究的な学びを推進するとともに、学習時間の確保を図る。	①校内研修会を実施し、1人1台端末およびソフト、アプリの利用促進を図る。 ②1人1台端末、情報機器の適切な管理に努める。 ③家庭学習時間平日3時間以上、休日4時間以上を目指す。	・他校の事例紹介や利用に関する研修会を実施する。 ・同意書の回収や保険への加入を適切に行う。また、記録簿を整備し故障や破損に対応する。 ・学習時間調査を実施し、家庭学習の定着を図る。	B	・研修会は実施できていないが、外部研修会への参加のための情報を共有している。 ・同意書の回収や保険への加入を適切に行なった。 故障3件・破損4件	・校内研修会を行えるように情報収集に努める。 学習時間調査については、調査のための調査にならないように、フルプログラムの運用も含めて、フィードバックの必要性・有効性などを検証する。	
	(4) 読書活動を推進する。	①年間貸出冊数1500冊以上を目指す。 ②年間一人10冊以上の読書を奨励する。	・図書館活動・図書委員会活動の充実を図る。特設コーナーの更新など魅力的な図書館づくりを行う。また、探究的な学習での活用に対応できる環境を整える。 ・読書の意義について指導する。読書関連行事の更なる工夫を行う。	A	・第1回 6月11日～17日 1学年123分/2学年110分/3学年160分 第2回 11月14日～20日 1学年141分/2学年154分/3学年186分 ・全校計1,708冊(前年度同期は1,290冊)。1学年による年間を通しての読書活動の推進の取り組みと、図書委員会の企画が、図書貸出数の増加につながった。 ・図書館での授業や学年の取り組みの中で先生方から生徒に読書の意義についてお話しいただいた。 ・年3回、出張図書館を実施した。10月には2週間の読書週間を設け1、2学年は朝読書も行った。 ・読書課題の運用方法の変更と学年の呼びかけを行い、読書感想文の提出者が増加した。(1学年8名中、2名が外部コンクールで入賞。内、1名は山形県コンクール最優秀賞)。	・今年度から「先見の時間」の運用方法が変わり、学年主体の取り組みが定着してきたので、来年度もより効果的な運用を目指す。 ・次年度以降の新入生図書館オリエンテーション実施時間の確保する。 ・年度末に生徒個人の年間読書冊数調査を実施し、次年度への指標とする。	
2 キャリア教育の推進	(1) 3年間を見通したキャリア教育の一層の充実を図る。	①校外の体験活動や授業・講義、校内での説明会や出張講座等の参加率80%以上を目指す。 ②校外のキャリア教育プログラムに積極的に参加し、その度に振り返りを行う。 ③教員向け進路指導研修会を実施し、参加率70%以上を目指す。	・1年間を通して校外キャリア教育プログラムに一度は参加するよう働きかける。 ・中学校から続く記録(キャリアパスポート)に継続的に残す。 ・最新の入試状況を捉えて、情報共有を進めていく。	B	・夏期休業中のオープンキャンパスへの参加(ほぼ全員) ・夢ナビへの参加(1年は全員、2年は周知して参加呼び掛け) ・各業者による進学説明会 ・進路講演会の振り返りや、学期ごとの振り返りの時間を設けて、継続的に記録を残した。 ・教員向けの小論文指導の動画視聴による研修会を実施	・校外のキャリアプログラムへの参加数は十分だが、進路決定への具体的なフィードバックが未確定であり、効果が見えにくい。 ・振り返りシートを確実に蓄積していくための方策を考える。 ・教員向けの動画視聴による研修会に講演会を追加できないため、全職員で視聴する機会を設けるなど次年度に向け検討する。	○文系理系の二者択一ではなく文理融合的な学びの推進も期待する。
	(2) 進路第一志望達成に向け、全体と個別の両面からの指導を行う。	①生徒向け進路講演会について70%以上のプラス評価を目指し、また振り返りを行う。 ②保護者向け進路講演会の参加率50%以上を目指す、またアンケート評価において70%以上のプラス評価を目指す。	・各学年と連携を図りながら、外部の研究会で情報収集に努める。 ・該当学年が、3年間の進路指導の中でどのような情報が必要なのかを明確にして、保護者に伝える。	B	・東北大学入試情報交換連絡会(会場:山形東)山形大学入試研究会(会場:山形大学)にて情報交換 ・生徒向け進路講演会は講師選定から充実して行うことができた。 ・1、2年の保護者進路講演会の出席率は50%を超えた。 ・3年の総合型・推薦型選抜の保護者説明会は70%以上の出席率であった。	・情報交換などは更に密に実施できるよう工夫する。 ・保護者への連絡手段の工夫 ・総合型・学校推薦型選抜の希望者が年々増加する中、志望理由書作成や面接・小論文指導のノウハウを大学ごとに蓄積し、北高スタイルを確立していく必要がある。	

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	
3 生徒指導の推進及び特別活動の充実	(1) 基本的な生活習慣を身につけ、自己成長を図る。	①学校生活時間を守る。 ②交通事故発生件数0を目指す。 ③登下校・校外活動において、他校生の模範となる行動（交通安全、挨拶・礼儀等）を目指す。	・フルグラムの有効利用を図るとともに、各種委員会やHR活動を通して授業開始時間などの時間管理意識を高める。また、遅刻指導を実施する。 ・生徒交通安全委員会の活動や集会等を利用した注意喚起等により、交通ルールやマナーについての徹底した指導を強化する。 ・生徒会執行部を中心に生徒総会、学年集会で話題に取り上げて生徒が主体的に行動するようにする。	・フルグラムは学年ごと有効に活用されている。 ・自転車による交通事故は3件だった。事故内容は被害事故2件、加害事故1件であった。近隣の住民からは交通ルールに関する苦情が多数あった。 ・交通安全委員会では街頭指導、交通安全の呼び掛け、生活委員会では服装の着こなしを呼び掛けた。また、応援委員会では挨拶運動を行った。	C	・引き続き有効活用を図る。遅刻指導については遅刻者が減少するなど効果があったが、遅刻者は固定化されているので生徒それぞれの事情を理解して指導にあたる。 ・常時、交通安全委員会が交通マナーの向上の呼びかけを行う。 生活委員会では、公共の交通機関のマナー乗車や乱れた服装をしないように呼び掛けを徹底する。	○部活動等の活躍が素晴らしい。
	(2) 豊かな人間性を育み、いじめ防止に取り組む。	①いじめの根絶を図る。 ②SNSに関わるトラブルを抑制する。	・アンケート調査を年3回実施するとともに、普段の生活から生徒の状態を把握して早期発見、防止に務める。 ・生活委員会の活動やチラシの作成、学年集会などでトラブル回避を喚起する。	・計画に沿って実施している。いじめの認知としては5件あったが、速やかな対応ができた。 ・SNSに関する誹謗中傷などはなかった。	B	アンケート調査のみに係わらず普段の生徒の生活状態を把握していじめの早期発見、防止に心がける。	
	(3) 生徒会活動や部活動の活性化の推進や、地域貢献活動等の推奨を通して自己実現を図るとともに、自己肯定感や自己有用感、自己効力感を醸成する。	①生徒会行事に係る満足度を高める。 ②インターハイ並びに全国高総文祭への複数参加を目指す。 ③ボランティアエンジェルへの登録者増加を図る。(200名以上)	・生徒の主体的、協働的な活動を支援して北高三大行事を成功させる。 ・部活動運営方針に沿った活動を継続するとともに、安全管理に留意する。 ・地区の民生児童委員や市社会福祉協議会等関係団体との連携を強化する。生徒への情報提供機会の充実を図る。	・波乗り大会、合唱コンクール、北高祭は概ね成功裏に終了した。 ・音楽部、書道部、放送部、チアリーダー部、囲碁が全国高等学校総合文化祭に出場した。 ・登録人数は210名であり、山形市学習支援ボランティア、山形まるごとマラソン、日本一の芋煮フェスティバルなどボランティア活動を積極的に行った。 なぎなた部員1名が国民スポーツ大会に県代表として出場した。	B	生徒の多様化する学校生活において、それぞれの場面で生徒が中心となって活躍できるように適切な行動や対応をする。	
4 健康の保持増進と快適な学習環境の整備	(1) 心身の健康保持に努め、健康保持増進を図る。	①出席率95%以上を目指す。 ②不登校生徒対策として、一次予防を充実させる。 ③感染症の集団発生ゼロを目指す。	・基本的な生活習慣の改善のための生徒保健委員会による啓蒙活動、生徒向け講演会等を行う。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、生徒向け講演会、カウンセリングを実施する。 ・感染症に関わる情報を収集し対策を講ずる。換気を行い密を避ける指導や、健康観察・消毒を行う。	・出席率97.9%（1学期）。個人の健康管理のため、さくら連絡網での健康観察入力を保健委員会で呼びかけを行った。保健委員会の研究発表（生理について）を行った。 ・心と体のエクササイズ、いのちの学習（1年）こころの健康（3年）を実施。Hyper-QU、生徒の実態に応じた職員研修会やカウンセリングを実施。 ・行事後に感染者の増加が見られたが、呼びかけにより最小限に収められた。	B	出席率の目標は達している。コロナ感染による出席停止者数は昨年度より減っている。良好な生活習慣を維持するための指導や欠席した場合の学習サポート等を校内連携などをしていく必要がある。	○ファンヒーターの活用等で教室環境が以前より快適になった。
	(2) 環境の美化に努め、快適な学習環境を維持する。	①登校日の清掃を完全実施する。 ②教室や水道の環境基準を遵守する。	・登校日（模試・講習・考査含む）の通常清掃や大掃除を実施し、年1回のワックス掛けを行う。 ・定期点検や、温度・湿度・CO2濃度・照度、水質等の測定と改善を行う。	・各清掃担当でトイレ清掃の手順を確認し、清掃の強化を図った。大掃除、ワックス塗布（2年）を行った。 ・定期検査を実施し、問題ない結果となっている。WBG計の測定を行い、行事の制限などの対策を行い熱中症予防に務めた。	B	老朽化するなか、修繕や清掃により、安全で清潔な校舎になるようにしたい。	
5 家庭、地域社会とのつながりの推進と安全安心な学習環境の整備	(1) 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を図る。	①HPの月2回以上の更新、学校広報紙「緑陵」を月1回配布を通して、地域社会等への情報発信を積極的・効果的に行う。 ②PTA総会出席率を70%以上を目指し、保護者との連携強化を図る。	・担当者との情報共有を図り、保護者、生徒、地域住民への情報発信を積極的に行う。 ・PTA総会や保護者会研修会の集会実施し、資料を事前配付し、協議の充実及び効率化を図り、PTA活動をさらに発展させる。	・前期に加え後期も、学校行事、学年行事、進路講演会、各種大会実施報告を活動画像と共に生徒の感想を入れ込み、多方面にわたる活躍について発信することができた。 ・全体・学年総会を参集方式で実施し、全体・各学年PTA総会の出席率は概ね70%であった。資料事前配付により、学年行事への意見が出る等、活発に協議が行われた。	B	10月実施の保護者学校評価は全項目で高い評価を得ている。尚、具体的指摘に関して、職員間でも協議し、学習指導、進路指導、生活指導におけるさらなる改善を目指す。	○緑陵後援会の特別強化費は生徒の活動を支えるよい取り組みである。
	(2) 創立百周年事業を見据えて、緑陵後援会、同窓会等関係機関との連携を一層強化する。	①関係機関の協力を得て、百周年事業の事業内容・運営体制などの調査・研究を、先進事例なども参考にしながら行う。	関係機関の現構成員に加え、旧構成員及びPTA会員・地域住民から幅広い意見・アイデアを募集し、現状を踏まえ検討する	・実行委員会原案作成、記念事業項目案を関係団体と意見交換している。県担当部署の助言を受け、さらに検討を重ねている。	B	職員、PTA会員、同窓会、緑陵後援会が連携し、記念事業への理解、支援体制を構築する。	
	(3) 危機管理体制を整備し、災害や事故の防止に努める。	①危機管理体制を不断に見直し、災害に応じた適切な体制を確立する。 ②「さくら連絡網」を活用し、情報を適切かつ迅速に発信する。 ③毎月定期点検を行い、校舎の維持管理を行う。	・危機管理を点検し、特にJアラート発令時の避難行動、不審者侵入防止対策を見直し、徹底を図る。 ・職員、保護者、生徒への登録の徹底を図り、必要に応じて安否確認を行う。 ・関係各所と連携を密にし、安全な学習環境の確保を図り、必要に応じて修理修繕、更新を行う。	・避難訓練や不審者対応講話を実施し、避難行動・経路を確認したり、身を守る方法について理解を深めた。 ・学校・学年・担任・顧問等からの情報発信、保護者からの連絡など日中及び夜間ともに活用範囲が拡大している。 ・生活課からの呼びかけで全教職員で安全点検を実施し、事務室が主体となり修理修繕を可能な限り実現している。	B	懸案のトイレ修繕に関して県との交渉・検討を重ね、改善に努力する。他の校舎修繕は、生活課・事務室と連携し、安全確保のため早急な対応を目指す。冬場の効率的な暖房に留意し、生徒・職員の健康確保に努める。	